

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は105万806人で、前年の107万1304人より2万498人減少し、出生率（人口千対）は8.3で前年の8.5を下回った。合計特殊出生率は1.39で前年と同率となった。（第1表）

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、34歳以下の各階級では前年より減少したが、35歳以上の各階級では増加した（第4表（1））。

合計特殊出生率の内訳を母の年齢（5歳階級）別にみると、15～29歳の各階級では低下したが、30～49歳の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第5表（1））

出生順位別にみると出生数は第1子及び第2子は減少したが、第3子以上は増加した。合計特殊出生率の内訳では第1子は前年を下回ったが、第2子及び第3子以上は前年を上回った。（第4表（2）、第5表（2））

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は35歳以上の各階級でいずれの出生順位についても前年より増加した。合計特殊出生率の内訳は、35～49歳の各階級でいずれの出生順位についても前年以上となった。（第4表（3）、第5表（3））

2 死亡数は増加

死亡数は125万3066人で、前年の119万7012人より5万6054人増加し、死亡率（人口千対）は9.9で前年の9.5を上回った（第1表）。

悪性新生物の死亡数は35万7305人で、死亡率（人口10万対）は283.2であり、死亡総数の28.5%を占めて死因順位の第1位となっている。第2位は心疾患、第3位は肺炎である。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男5.5、女2.9で前年より男は0.1、女は0.2それぞれ上回った（第1表）。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△20万2260人で、前年の△12万5708人より7万6552人減少し、自然増減率（人口千対）は△1.6で前年の△1.0を下回り、数・率ともに5年連続でマイナスとなった（第1表、第2表－1、第2表－2）。

4 死産数は減少

死産数は2万5751胎で、前年の2万6560胎より809胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は23.9で、前年の24.2を下回った（第1表）。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は66万1895組で、前年の70万214組より3万8319組減少し、婚姻率（人口千対）は5.2で前年の5.5を下回った（第1表）。

6 離婚件数は減少

離婚件数は23万5719組で、前年の25万1378組より1万5659組減少し、離婚率（人口千対）は1.87で前年の1.99を下回った（第1表）。